

# 積層造形用粉末をPR

## 新報国マテリアル、TCT展で



新報国マテリアル・ブースの前で成瀬社長と柳谷特任教授

新報国マテリアルは「TCT Japan 2023」において、自社で成分設計した積層造形用の低熱膨張合金粉末で造形したサン

プルを披露している。1日、成瀬正社長が同社のブースを視察した。今回は新報国マテリアルが顧問として招聘した兵庫県立大学特任教授で金属新素材研究センター副センター長である柳谷彰彦氏がパネルディスカッションに登壇し、また柳谷氏

が関係する「ひょうごメタルベルトコンソーシアム」が出展することから、新報国マテリアルも同展に参加した。成瀬正社長は、「2023年以内に低熱膨張合金による積層造形品の生産・販売にめどを付ける。年内に積層造形装置の投資も決定す

る。当社事業の大きな柱にする元年にした」と意気込みを語った。柳谷氏は、「国内の3



低熱膨張合金を用いた積層造形品

D造形は世界に比べて遅れていると言われるが、必ずしもそうではない。3D造形は粉末が重要。新報国マテリアルはインバー合金の技術を持ち、自社で3Dプリンターを有しなくてもターゲットを絞ることで実用化直前まで来ており、進んでいると思う」と語った。